

2021.07.30

「障害のある子ども・青年の性教育実践 はじめの一步」 ～一緒に学び、語り合い、知ることから始めよう～

仙台市立上愛子小学校
代替養護教諭 鈴木 良子

はじめに

今から18年前初めて障がい児学校の養護教諭として着任した。

保護者はわが子の性に関する悩みを抱えて日々保健室に駆け込んできた。又 近隣の支援学校では高等部に地域の中学校から知的にやや高い子どもたちが入学してくると「どうせ僕なんかいない方がいいんだ」という自己否定からの暴力的な言動、抱きつき、のぞき、キスなどの性的な問題行動が一気に噴出し、従来の禁止や抑圧の指導では対応できず困惑している情報が飛び込んできた。

障害のある人たちは、日本社会のセクシュアリティの貧しさと、障害者を性的存在ととらえない二重の偏見のもと、人間らしい性の発達の権利からは遠ざけられてきた。性や、大人になりゆくからだと心について教えられず、幼い頃から自分の性器にさわることを止められてきた結果、自分のペニスを持ってない、洗えない、教えようとしても受け付けない、手を使っての自慰ができないなどの問題を生じさせている。

人との距離を機械的に教え込まれたり、恋愛禁止の指導を受けて来る中で、人との関わりに臆病になったり、こだわりになったりしている。

人との関係性についての学びがないまま無防備に問題に巻き込まれる例も少なくない。

様々な相談事例から浮かびあがってくるのは、周囲が困っている以上に本人が困り、傷つき、自信をなくしている姿だ。性は本来、学校で仲間とともに当たり前のこととして学びあえることが大切だ。わくわくしながら性を持って生きる自分を感じとり、気になることを話し合うことができる、そんな学校時代を過ごしてほしい

しかしこれまで性教育を受けてきたという青年はわずかであり、ネットや週刊誌などから得た誤った知識も取り込んでいる。性教育のネグレクト状態で育った青年たちに、性と生の主人公として生きるための学びを届けたい。

平成12年度からから仙台市で障がいのある青年の性のセミナー「ポケットの会」を作業所職員や相談員、教員等10名ほどのスタッフで実践している。しかし、令和2年3月から新型コロナウイルス感染症のため活動は止まっている。

1 性教育を推進する確かな根拠と基盤

裏付けとなる国際的動向

世界性科学者会議（現・性の健康世界会議）『性の権利宣言』（99年）

世界保健機構（WHO）の概念規定（02年）

セクシュアリティ〔性と生〕、セクシュアル・ライツ〔性の権利〕、セクシュアル・ヘルス〔性の健康〕

包括的性教育ガイドライン（SIECUS）（04年）

国連『障害者権利条約（06年国連採択、14年日本批准）日本は160ヶ国中141番目 ユニセフ『性教育国際指針（ガイダンス）』初版（09年）

2018年改訂版国際セクシュアリティ教育ガイダンス包括的性教育 次のようなことを実現しうる

- ① 知識、スキル、態度、価値観を身につけさせること
- ② 子ども・若者の健康と幸福、尊厳を実現すること
- ③ 子ども・若者たちが尊重し合う社会的・性的関係を育むこと
- ④ 子ども・若者たちの選択が、自分自身と他者の幸福にどのように影響するかを考
えること
- ⑤ 子ども・若者たちが生涯を通じて自らの権利を守ることを理解すること

資料①【性教育国際指針（ガイダンス）が示す包括的性教育の内容】

・8つのキーコンセプト・4つの年齢段階：5～8歳、9～12歳、12～15歳、15～18歳
以上

<p>キーコンセプト1： 人間関係</p> <p>トピック：</p> <p>1.1 家族 1.2 友情、愛、恋愛関係 1.3 寛容、包摂、尊重 1.4 長期の関係性と親になるということ</p>	<p>キーコンセプト2： 価値観、人権、文化、セクシュアリティ</p> <p>トピック：</p> <p>2.1 価値観、セクシュアリティ 2.2 人権、セクシュアリティ 2.3 文化、社会、セクシュアリティ</p>	<p>キーコンセプト3： ジェンダーの理解</p> <p>トピック：</p> <p>3.1 ジェンダーとジェンダー規範の社会構築性 3.2 ジェンダー平等、ジェンダーステレオタイプ、ジェンダーバイアス 3.3 ジェンダーに基づく暴力</p>
<p>キーコンセプト4： 暴力と安全確保</p> <p>トピック：</p> <p>4.1 暴力 4.2 同意、プライバシー、からだの保全 4.3 情報通信技術（ICTs）の安全な使い方</p>	<p>キーコンセプト5： 健康とウエルビーイング（幸福）のためのスキル</p> <p>トピック：</p> <p>5.1 性的行動における社会規範と仲間の影響 5.2 意思決定 5.3 コミュニケーション、拒絶、交渉のスキル 5.4 メディアテラシー、セクシュアリティ 5.5 援助と支援を見つける</p>	<p>キーコンセプト6： 人間のからだと発達</p> <p>トピック：</p> <p>6.1 性と生殖の解剖学と生理学 6.2 生殖 6.3 前期思春期 6.4 ボディイメージ</p>
<p>キーコンセプト7： セクシュアリティと性的行動</p> <p>トピック：</p> <p>7.1 セックス、セクシュアリティ、生涯にわたる性 7.2 性行動、性的反応</p>	<p>キーコンセプト8： 性と生殖に関する健康</p> <p>トピック：</p> <p>8.1 妊娠、避妊 8.2 HIVとAIDSのスティグマ、治療、ケア、サポート 8.3 HIVを含む性感染症リスクの理解、認識、低減</p>	

(2) 日本の現状～日本は性教育の後進国～

障害児・者の「性」の状況と背景

- ・優生思想⇒「不良な子孫の出生の防止」
- ・戦争中、障害者は「非国民」「役立たず」「穀つぶし」と言われ、いっさいの権利を奪

われた。「座敷牢」で生活をしている人もいた。

- ・ 出生前診断・母体血細胞フリー胎児遺伝子検査（新型出生前診断）：母の血液から胎児の染色体や遺伝子等を調べる⇒障がいのある子が生まれるのを否定。
- ・ 日本での「性」は暗くて、恥ずかしいもの、ことばには出さないという考えが強い。偏見にみちたジェンダー」「貧しいセクシュアリティ」の再生産

ーその取り組みと支援のあり方ー

1 性教育のねらい

- ・ 自分のからだや異性のからだを知る。
- ・ 生命の大切さを知る。
- ・ 自分のからだや心が大人になっていっていることを知る。（小学高学年・中学生・高等部生）
- ・ 恋愛をしたい、結婚をしたいと願うことは自然なことである。
- ・ 自己肯定感を育て、自尊感情を高める。
- ・ 幸せな人間関係を築くために学ぶ→「快」「不快」がわかる。
- ・ 性被害にあわないための力をつける。

2 大切にしたいこと

- ・ 性的な行動を「ダメ」「ダメ」と禁止するのではなくて、肯定的に見て、共感をする。
- ・ 発達年齢を加味しながらも、生活年齢を大切にすること。
- ・ 性教育で「寝た子を科学的に起こす」「起きている子には正しい知識を」
→障がいのある子は情報が限られているからこそ、正しい知識・科学を知ることが必要である。
- ・ 自己肯定感を育てる
→大事にされてこそ自己肯定感が高くなる→人も大事にできる。（例：ほめる、励ます、うなづく、任せる、話を聞く、「ありがとう」、「助かったわ」、共感する）
- ・ 自分で決める機会を持つ→「イヤ」を認めていく。「イヤ」が出せることが大切。
- ・ 心地よい体験をいっぱい積む→「快」「不快」の理解になり、人との関わり方につながる。

3 学校教育目標の中にこめられた願いと性教育 東京 A 支援学校

なかまとともに からだをつくる ところをひらく たのしくまなぶ

- * 相互の信頼関係を築く。安心できる人間関係をつくる
- * 生命を大切にする力(気持ち)を育てる
- * 自己肯定感を育てる
- * 自分らしく生きようとする力を育てる

本校の子どもたちの実態から、他人に受け入れられるという安心感や心地よさはとても大切です。狭い意味の性教育ではなく、より人生を豊かに過ごしていけるように「人との関わり」を大事にしながら、性＝生きるをテーマにしていきたいと思えます。そして、成長していく課程で変化する自分のからだや気持ちを受け入れ、自分が尊重されるという経験をしていくような広い意味の性教育が必要と考えています。

学部のねらい

小学部段階… おとなに受容される経験、豊かな生活体験をするなかで生活実感を育て「人が好き・自分が好き」と思えるようになる。排泄の仕方など小さいうちから学んでいき、身辺自立に向かっていけるようになる

中学部段階… 第二性徴によるからだの変化や、気持ちの変動も「大人に向かう課程の自分である」と受け止められるようになる。自分の性を自覚し肯定的に認めることができる。からだはいいものすばらしいものであることを感じとらせる

高等部段階… おとなとしての自覚を持てるようになり、まわりの人とともに生きていく力をつけていく。相手のことを思いやり、協力しあえる人間関係を作っていく。社会的に受け入れられる「人への関心」の表現方法やエチケット・マナーなどを身につけられるようになる

「性教育の時間」として大切に考えていること

- * 心地よさの体感やボディイメージを育てる時間
- * リラゲゼーションタイム・ハッピータイムとし、からだの緊張をとる時間
- * 人とのふれあい・かかわりを多く持ち「安心感」「人を好き」と感じられる時間
- * 清潔なからだは「気持ちよい」スキンシップは「心地よい」「からだって」いいものだと思えるようになる時間
- * からだの成長や心の変化、男女の特徴に気付いていける時間。自分を守り、からだを大切にす気持ち育てる時間
- * 自分自身の「よさ」や 友だちの「よさ」に気づき、お互いに自分らしさを出せる時間。自分に自信が持てるようになり、自分を好きと思えるような時間
- * 恋愛・交際を通して素敵な人間関係を考えあう時間。性交・妊娠・出産・育児・避妊など必要に寄って科学的な知識を学び豊かな人間関係を築く時間

自分育てと人との関わり」を中心にすえ→安心するふれあい、大事にされる人間関係を十分に→快を感じる気持ちを育てる→快を伝えるために

(1) 快の体感

このテーマの学習では、わらべうた、足湯、蒸しタオル、マッサージ、ホットウォーターブルなどを使って行います。この内容は体の緊張を緩め、こころとからだの快を感じ取れるようになる目的と、人と触れ合う楽しさを知ったり、安心感を得るという目的があります。このことが将来、自分の体や心はよいものだと思える気持ちや、人と豊かにかかわれるようになる土台になると考えています

心地よさを伝える

心地よさから快、不快に気づき快の感覚を育て自己肯定感の土台作り

【心にとっての快】

- * 目を見て一生懸命話を聞く、気持ちをわかろうとする気持ちを受け止める
- * 一緒に過ごす快(喜び・うれしさ・楽しさ)を感じる

- * 相手を大事にする様子を見たり、その体験をあげよう
- * 指示語はなるべく控え、やさしい声かけをする

【からだにとっての快】

- * やさしく触れる、手のひら全体で触れる
- * 抱きしめる
- * 気持ちよいお湯の温度を体験する
- * マッサージ・エステ・リラクゼーション
- * 香り・音楽でリラックス

実践例

① からだ歌

子ども達に期待感を持たせる歌

ボディイメージを育てる歌

教員とふれあい(見つめる、触れる)の時間を生む歌 からだにやさしく触れることでの「あなたの体、あなた自身がとっても大切な存在だよ」いうメッセージを伝える歌

② 赤ちゃんだっこ・・・やさしくタッチ

リラックスして楽しむ 豊かな表情

優しい気持ちにさせる

ことばではなく、大人が赤ちゃんを大事にしている様子を見せることで自分より小さな存在を意識したり優しくせつしようとする仕草が育ってきます
怖がったり攻撃する子もいるが、回を重ねると変化してくる

③ 羊水を実感する

胎児時代にさかのぼる学習

自分が存在していた空間を楽しむ

ビニール袋に入れた3～4リットルのぬるま湯をお腹に乗せ温かさを感じたりぼこぼこ揺れる感覚をみんなで実感する

「あったかーい」「重い」「みんなもこんな気持ちよいところに入っていたんだよね」「温かさの快」「自分のことを楽しくイメージする快」の実感をねらいとします

④ 赤ちゃん人形の沐浴

人形の髪の手触りが気に入って「なでなで」を好んだり、髪の毛にアクセサリをつけるのを好んだり・・・の活動に広がった子どももいた

「ハグハグの歌」を歌いながら、友だちをやさしくなでたり、ハグする(抱く)などの心地よいふれあいを体験できるような活動を模索した

「優しくされているのを見る、その雰囲気を感じよう」

先生が赤ちゃん人形を上手に沐浴させる

その優しい語りかけや愛情のこもった仕草を子ども達はよく見ている

「あなたも赤ちゃんと同じように大切にされる価値がある」

⑤足湯、

温泉の素を使用して、いいにおいのお湯にゆったりと足をつける。

友だちと同じお湯に入ることを楽しんだり、職員に足を触ってもらうことを喜んだりふれあいの時間を持った

緊張して硬くなっているからだがふんわり柔らかくなって穏やかな表情になっているのを見ると、いつもの生活の中ではどれだけ緊張感に満ちているのか想像がつく

緊張を解きほぐす経験によって体をリラックスさせ柔らかくすることを覚える

柔らかくなったからだと心でないと外部からの刺激をきちんとうけいられない



〈さし絵① 足浴〉

「あったかくて きもちいいねー」

「いいかおり～ 温泉みたいねー！」

⑥ リラックスタイム

パラバルーン

風船

BGM 1/f ゆらぎ

先生の膝枕



⑦ マッサージ

環境を整え（アロマ、BGM、）

音楽にあわせてマッサージ、リラックスと気持ちよさを体験する活動

⑧ホットタオル

あったかいタオルを首や顔につけたり、からだをふいたりする気持ちよさを体験



〈さし絵② 蒸しタオル〉

「は～ きもちいいー！」

⑨ 温泉ごっこ

レモン風呂 リンゴ風呂

「温泉気持ちいいな」「友だちや先生といっしょでうれしいな」

高校生になっても本人にとって心地よい触れ合いの部分が充分でなかった場合何度でもやりなおすことが大切

大人との間に安心感が生まれる

自分の弱さ、自信のなさをすなおに出せる→自己肯定感を土台にして人とつながる力が広がる

⑩おしゃれごっこを・変身しよう

きれいなもの、かっこいいもの、すきなものを選んで着てみる。鏡で自分の姿を映したり影絵のシルエットを使ってみんなへのアピール(自分の影を見る)等、視覚に訴える

⑪ 軽快なリズムの曲でダンス

寝たきりでも順番に音楽にあわせて手を動かす
手の動かし方は子どもからの自発な動きをとらえる
一人一人スポットライトをあてるような進め方

⑫ 音楽を聴こう・・・ほっこりタイム

障害の重い子たちにとっては音楽を聞きながらゆったりした雰囲気の中で心地よい体験をしながら、自然に体を動かし、心と体のやりとりを共感しながら心と体のリフレッシュをはかります

他者からの働きかけを受けとめる入り口を広げる
自発的な動きを促す

大人も子どもも寝ころんでたっぷりクラシックの曲を聴く
メロディーラインの美しい曲 例 大江光さんのアルバム
5分以内

始まりと終わりがありその間に盛り上がり
終わりを教える・・・握手など何より大人が楽しく

⑬ からだほぐしを楽しもう

ゆったりイキイキ からだきづき

「目隠しで私に案内されいろいろなものに触れたり音を聞いたりする取り組み

体の力がぬけた・・・脳や気持ちを休める時間

「与えること、受け取ること」の取り組み

自分の体を自分のものにする

足や手を持ってもらうことで自分のからだの重み、呼吸などを感じ自分の体に向き合うようになった

揺れの感覚で寝る→ 仰向けで寝られる

⑭ 小さかったころに戻ったつもりで何をして遊びたい？

抱っこやおんぶ・くすぐりっこ・手遊び

子ども達はこの時とばかりにたくさんの希望を教員達にぶつけ遊んでもらいます

自分の心を開く様子

赤ちゃん時代、幼児時代受けるはずだった「心地よい触れ合い」を再現することの重要性

⑮ サイコロゲーム

サイコロタッチ(触れ合い)

サイコロの目：握手・頭なで・肩くみ・腰くみ・背中合わせ・ハイタッチ・腕くみ・肩トントンなど

お約束：①「〇〇していいですか？」と相手に聞く

②相手の「いいです」と言う返事を聞いてからする

③嫌だったら「いやです」と言ってやらなくて良い

④相手が「いやです」と言ったらしない

⑤してもらったらお礼を言う

ねらい：①自分と相手のからだの違いを知る(大きさ・かたち・力加減など)

②人のぬくもりを感じる

③ほどよい力加減を考えて相手に触れることで思いやることができる

④心地よい触れ合いを知ることで、嫌な触れ合いが分かる

⑤嫌なときは「いや」と言う力が育つ

⑥する前に「いいですか？」と言う確認をすることで、お互いに心も身体も大切であることを知ることができ、尊重し合える

(2) 性教育テーマ

①性はグラデーション

男、女だけでない性。男でも女でもない性（インターセックス）。性同一性障害。性を決めるのは本人。異性愛だけでなく同性愛、両性愛、Aセクシュアルなど、いろいろな好きがある⇒共生

⇒障がいのある子は自分から言えない子が多い。20歳を超えたぐらいから言葉に出せるようになるので、決めつけないで見守ってほしい。

②プライベートゾーンについて

- ・水着でかくす所と口（唇）。「見せない」「触らせない」「大切なところ」「とっておきの場所」
- ・人のはさわらない。見ない。しかし、かゆい時や病気の時は見せてね。
- ・プライベートゾーンは、その人自身の宝物。触ってよいのは自分だけである。自分が大切な存在。
- ・見られたり触られたり、見せられたら「いや」「逃げる」「伝える」⇒ロールプレイで練習が必要。
- ・性器の名前を言えることが大切。触られたときなど、その場所を伝えることができる。被害にあいそうになったとき、声をあげることができる ⇒学ぶことで、相談がある。

☆絵本を使って：「わたしのはなし」「おちんちんのはなし」

③男の子のからだ

- ・からだの変化⇒発毛（わき毛、すね毛、胸毛、性毛、ひげ）、声変わり、のど仏、ペニスが大きくなる。
- ・ペニスの働き⇒（ ）（ ）（ ）
- ・ペニスが勝手にひんぱんに勃起⇒大人への準備。いっそう敏感に⇒不安になる。自慰につながる。
- ・射精は大人のからだになったこと。赤ちゃんを作ることができる大人のからだになったことを伝える。夢精はおねしょや膿（病気）ではない。
- ・精子（赤ちゃんのもと）は全て外に出さなくても、水とタンパク質となって体内に吸収される。
- ・おしっこはペニスをしっかり持って、皮をむいて、おしっこが終わったらちゃんと振って、また包を元に戻してパンツに入れる。包をむくこと、自分で優しく洗うことが自慰につながる。
⇒ズボンをおろしておしっこをする青年がいる。おしっこの仕方も支援が必要。

- ・絵本を使って：「男の子のからだ絵本」「こころからだいのち 男の子」「おちんちんのえほん」
- マンガ「おれたちロケットボーイ」

④女の子のからだについて

- ・からだの変化⇒発毛、胸が大きくなる。からだに丸みが出てくる。
- ・性器の名前が言えることが大切⇒性器の名前を知らない人が多い。ワギナ、おちんちん、自分の性器を鏡で見る。
- ・月経が始まる⇒卵子（赤ちゃんのたまご）が1ヶ月に1つ育ち、子宮に出てくる。子宮内膜が月経となって、ワギナから外に出てきてナプキンで受け止める。ワギナは赤ちゃんが生まれてくる道で、尿や大便が出てくる所とは別にある。月経は赤色をしているが病気ではない。清潔に。 ・ナプキンになじめるようにしておく⇒（ ）
- ・おりものは、ワギナの乾燥を防ぎ、ばい菌の侵入を防いでいる。量は1ヶ月の中で変化する。
- ・自分のからだを知るために、月経・生理表をつける。（月経前のイライラもわかる）
- ・月経・おりものは健康のバロメーター。「今月も月経があってよかったね」という声かけを。
- ・絵本をつかって：「女の子のからだ絵本」「こころからだいのち 女の子」「おちんちんのえほん」
- マンガ「ポップコーン天使」

⑤命の誕生：発達年齢が4歳ぐらいの中学生でも、自分が赤ちゃんだったことを知らない子がいる

- ・生命の大切さや自分がどのように育てられたかを知る
- ・2～3億の精子が1つの卵子をめざし、たった1つの精子とだけ出会い生命の誕生。奇跡の命。
- ・妊婦体験エプロン、子宮体験袋、赤ちゃん人形を通じて沐浴体験、着がえ等のお母さん体験。
- ・何回も学ぶ必要がある。自分は大切な存在、友だちも大切な存在であるとわかってくる。
- ・絵本を使って：写真「おなかのあかちゃん」、写真集「あかちゃんがうまれる」「おへそのあな」「おちんちんのはなし」、「うまれてきてくれてありがとう」「せつくすのえほん」「ぼくのはなし」

⑥性器いじり⇒「自分のからだの中で一番気持ちのよい所」と知っている。

- ・なぜ、性器いじりをするか？⇒（ ）
- 性器いじりをしていない時はどんな時かさぐる。好きなことをいっぱい見つけてあげて欲しい。
- ・「ダメ」「汚い」⇒自分のからだを否定的に捉える⇒性器に触れない。自慰ができなくなる。
- ・みんなの中であれば、他の遊びに誘う→「ここでならいい」という場所に。動かないときはバスタオル等をかける⇒射精できることが大切。叱らないでほしい。

⑦自慰について

- ・自分のからだを自分で使って楽しむ行為。セルフプレジャー（自分の楽しみ）
射精ができているか。家庭でできる場所を作る。
- ・「自分のからだはどこを触ってもよい」自分で決めて一人です。場所。時を選ぶ。
人前でしない。性器を傷つけない。
- ・「一人になれる力」⇒親から自立するきっかけ。見守って欲しい。
- ・上手くできない子には見守りや支援が必要⇔支援ができる人になってほしい。（相談者が必要）
- ・男の子にとっても女の子にとってもは必須科目（18歳までに）で、自分の性をコントロールすることにつながる。自慰は、「気持ちよさ（快楽）」、「自分の性のコントロール」、「自分発見」、「自分の秘密」で、からだの主人公、性的自立のすがたである。

⑧付きあい方、性交・セックスについて：青年たちの一番知りたいこと

- ・告白をすると、OK をもらったと思う人がいる⇒ていねいな告白のロールプレイ。
- ・彼らだって好きな人とセックスをしたい。きちんと教えてほしいという気持ちがある。
- ・性交＝漢字で書くと「こころが生きる」「まじわり」である。そのためにはルールがある。
- ・セックスには①赤ちゃんを生む性②ふれあいの性③支配・暴力の性がある。
赤ちゃんを産むとき以外は、避妊を必ず行う。安心・安全は、最低現のマナー。決して急がなくていい。ゆっくりでよい。お互いのことを思いやる気持ちが必要。抱き合うだけでも気持ちがよい。
- ・性交について教える時は、避妊、妊娠、中絶、性感染症といっしょに教えると彼らは慎重になる。⇒中絶で「赤ちゃんを殺す」と言ったために「セックスはどんなけこわいか」と感想に書いた人がいた。言葉の使い方を慎重にしなければならないと反省し、以後、「赤ちゃんが大きくなる前に、おかあさんのおなかの中から取りだす」としている。それでも、十分に伝わっている。
- ・親しい二人であっても、「イヤ」と言うことができる。「イヤ」と言われたらやめる。
決めるのは自分である。合意、対等な関係を考える。どんな時に「イヤ」と言うか、考える。
- ・避妊は、「相手への責任」「新たな生命への責任」である。コンドームをつける。女性は、「コンドームをつけて」と言った時、嫌がる人とはしない。
- ・性感染症を防ぐのは、コンドームである。誰が病気かわからないので、コンドームを使う。
⇒コンドームの装着練習をする。（表裏がわかりにくい）
- ・コンドームを付けなくて性交をした時は、すぐに相談する。緊急ピルを 72 時間以内に飲むと、妊娠しない。無理やりセックスするのはレイプである。
⇒相談がある（レイプにあった。病気かもしれない）⇒性の話をしているから相談ができる。
- ・アダルトビデオは、ウソの世界。俳優さんが演技をしている。決してまねをしない
⇒アダルトビデオが教科書になっている。

☆学ぶと感想に「本当に好きな人と、コンドームをつけてセックスをしたい」

☆絵本を使って：「性・SAY・生」（育成会）「せっくすのえほん」

(3) 教材の工夫

① 具体的な教材の大切さ

一般論や抽象的なことへの理解が苦手な知的障害児も、具体的な教材を使うことで生き生きと性を学ぶことができます。

障害児への性教育は教材なしには進みません。これまでの実践は絵本や紙芝居、写真、詩や作文、ペープサートやパネルシアター、人形、歌、教員劇、映像などなど、様々な文化を動員して手を加え、新たに作り出してきました。

教材は子どもに育てたい力と子どもの年齢や発達、興味関心など受けとめる力との緊張関係の元で準備されます。そして授業で使われることによって命を吹き込まれます。

② 実物の代わりに務める立体的な教材

言葉による説明を理解することができない子どもたちにも、見たり、触ったり、遊んだりできる教材を用意することで性教育の意図を伝えることができます。

教室に発砲スチロールや段ボールなどで作ったトイレを設置し、男女の排泄の仕方を教えます。

教師が教えたい部分を強調して演じると、子どもは日頃は意識しない排泄のことを意識したり、自分も真似てみようとしみます。ズボンを下げておしりを出して排尿していた子がおしりを出さないようにながらぶ様子が見られたりします。

ペニスの模型や性器のある人形で身体各部位の名称を知ってボディーイメージを確かなものにしたり、性器の洗い方や、射精、月経の手当などを学ぶことができます。模型で性器の洗い方を学んだ後の入浴では包皮を引いて洗おうとする姿が見られます。外性器の学習にも使えます。高価な沐浴人形がない場合には市販の人形に性器や肛門をつけて教材にすることもできます。

足湯やマッサージで気持ちよく人からからだを預ける経験などは障害の程度に関わりなく、一緒に取り組める活動です。

③ 生活実感のある教材 五感を使って

妊娠中の教師には関心を寄せ、興味をもって受けとめる

先生のお腹の中で胎児がどう育っているかを考えて絵に描いたり、赤ちゃんにそっと話しかけてみたりします。

誕生会の折に小さい頃に着た服があれば持ってきてもらおうと、小さくて入らない服を何とか着ようとしてみるなど、大きくなった自分を友だちとともに感じ取ります。

目隠しをして友だちに手を引かれて歩いてみる活動

赤ちゃんが食べる離乳食を並べて食べて感想を話し合う。

醤油とコーヒー、塩と砂糖、さいころ状に切ったりんごとジャガイモなど、視覚だけでは区別がつかない食品を並べてあてっこし、なめたり、かいだりして確かめてみる、ハーブの香りを漂わせる等々、五感を使った活動は身体の素晴らしさに気づく学習として大切にされてきました。

まとめ

- ・ からの急激な変化が気になって仕方がない。それがやむにやまれぬ行動に。「問題行動」ではなく、からの変化への興味・関心・疑問・不安による発達要求と捉え、「自分のからを知るチャンス」「からの違いを知るチャンス」と。正しい知識を教えることで自分の行動をコントロールする力となる。「ダメ」「ダメ」と否定的に見ずに、

1人の人間として共感をもって肯定的にとらえてほしい。問題が隠れている場合が多く、根底にあるものを探してほしい。

- ・性について知ることは、人間の成り立ち（受精、胎児、出産）、多様な性、人間の成長、男・女、恋愛、性交、結婚、妊娠、避妊、性被害・加害、デート、自分の障がいについて知ること等広範囲にわたり、**人権に関わる大切な学習**である。夢精をおねしょと思っていたり、アダルトビデオが教科書になっていたり、女性が自分の性器の名前を知らなかったり、障がいがあることで劣等感を持ちやすい彼らにこそ自尊感情を高める性教育が必要である。子どもも青年も自分のからだを知ることが大好きである。そして情報は、良し悪しに関係なくインターネットや携帯を通じて簡単に手に入れることができる。彼らを「正しい情報で科学的に起こしていく」必要がある。
- ・5万数千の虐待児のうち3分の1が自閉症児や発達障害児で、発達やコミュニケーション、人間関係の育ちが未熟な子どもたちである。本人の思いや願い、ちからを読み取ってもらえない生い立ちがある。愛着障害や暴力行為、性的問題行動に出てくる。激しい行動ほど彼らの傷が大きいと読み取り、彼らの怒りと混乱をまず受け止めることが重要である。出ている問題だけにとらわれず、本当の問題がどこにあるのか探っていってほしい。
- ・障害者権利条約でも彼らに家庭をもつ権利や、子どもをもつ権利が認められており、性について学ぶ権利がある。年齢にふさわしい性教育があるのでぜひ、取り組んでほしい。青年のセミナーに参加した人が最後の感想で「いろいろはなしがされて、世界が広がった。嬉しくなった。ありがとう」と書いてくれた。彼らの生活をよりゆたかにするためにも、性の学びは必要である。

【資料1】

【参照】障害者権利条約 第23条 家庭及び家族の尊重

1 締約国は、他の者との平等を基礎として、婚姻、家族、親子関係及び親族関係に係るすべての事項に

関し、障害のある人に対する差別を撤廃するための効果的かつ適切な措置をとるものとし、次のことを確保する。

- (a) 婚姻をすることのできる年齢にある障害のあるすべての人が、両当事者の自由かつ完全な合意に基づいて婚姻をし、及び家族を形成する権利を認めること。
- (b) 障害のある人が、子どもの数及び出産間隔を自由にかつ責任をもって決定する権利、並びにその年齢に適した方法で生殖・出産及び家族計画に関する情報及び教育にアクセスする権利を認めること。また、障害のある人がこれらの権利を行使することを可能とするために必要な手段を提供すること。
- (c) 障害のある人（障害のある子どもを含む）が他の者との平等を基礎として生殖能力を保持すること。